



ネイチャーなら

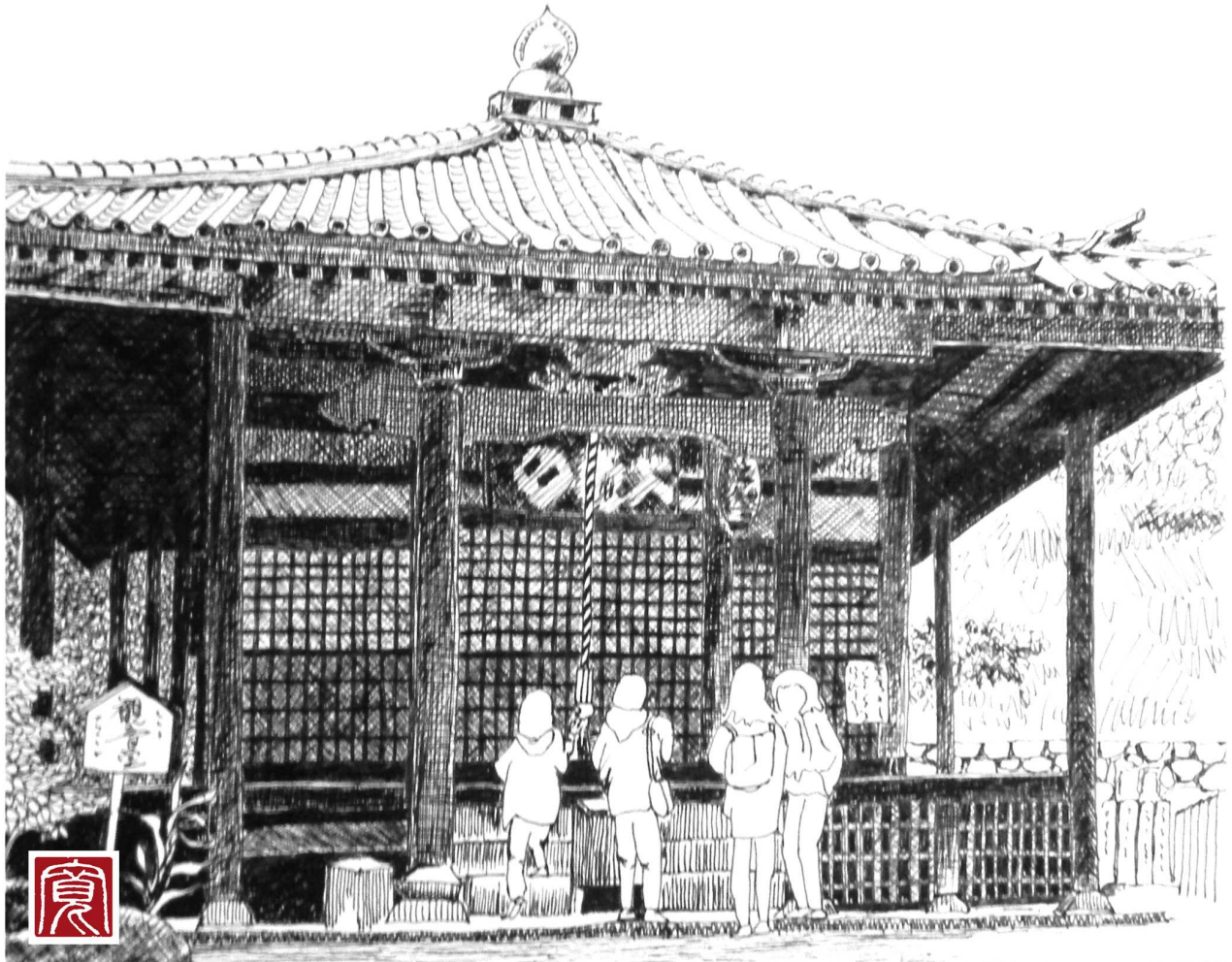
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年6月1日

6月号・第137号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



Contents

§ § § § §

多士済々.....	①	やさしい昆虫講座②.....	⑫
仲間入りしました④.....	②	自然俳句.....	⑬
仲間入りしました⑤.....	③	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑭
仲間入りしました⑥.....	④	青垣春秋.....	⑮
Monthly Repo.ならやま.....	⑤	Galleryならやま.....	⑯
里山の今.....	⑥⑦	蕎麦よもやま咄③.....	⑰
5月例会報告.....	⑧	ならやま景観整備.....	⑱
天平祭春のイベントに初参加.....	⑨	情報BOX & 奈良学クイズ.....	⑲
人の心に緑の憩いを&総会報告.....	⑩	行事案内(例会案内&予告).....	⑳
自然教室チームだより.....	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	㉑

多士済々

小嶺敏勝氏の
退会を惜しむ

顧問

川井 秀夫

先日、事務担当の方からメールで彼の退会の知らせを受けました。唐突な事で吃驚しております。私の会長時代に入会され、温厚で責任感の強いお人柄で、程なく幹事の一員として、特に自然工作の責任者として初代 樋口 善雄 氏の後継者として、チーム作りに腐心され、出前教室の先駆者として道筋を確立して頂きました。



【出前教室で工作指導をされる小嶺さん】

また、「ならやま」県有林の整備について、いち早く情報を提供され、幹事会の採決を経て委託事業に参画する事になりました。現在のならやま里山林の隆盛を思うと、彼の進言がなければ、違った展開になったと思います。



【平成19年冬「ならやま」整備予定地下見】

里山では農事を中心に総括リーダーとして活躍され、創造力を発揮されて理想を推進してくれました。

一方、例会行事・県民フォーラム・アースデーなど内外の催しには常に彼の姿があり、オールラウンドプレイヤーとして活動して頂きました。



【会員への自然工作指導】

在任中には、出前教室の事業収入に伴い、スタッフの交通費補助を要請されたり、里山・里地の青写真の意見具申を受けた事も屡々でした。

客観的な視野で常に前を向かれて居た様に思います。ご本人の理想の実現にある種の蹉跎が生じ距離を置かれた一因であったのかも。



【コナラ活用シイタケ栽培指導】

近年は、平群地区の丘陵の一端で、地権者と、間伐作業に取り組んでおられるnn20130ご様子で、今回の退会には、二足の草鞋の限界を感じられたのかも。

三年前になりますか、例会行事を彼のご案内で当地の桃源郷を歩いた記憶が鮮明に脳裏を過ります。彼の活動現場も巡り、なかなか精力的な方と感心したものです。

大きな足跡を残してくれた彼の背中に、感謝の花束を贈ります。好漢 小嶺さん。新天地で頑張ってください。長い間ありがとうございました。

いつまでもお元気で。
奥の細道の一節
月日は百代の過客にして行かふ年も又旅人也・
か。

(写真提供：阿部和生)

仲間入りしました④



入会にあたって

西村 佳基

私が自然大学校終了後の進路の選択の条件として考えておりましたのは、これから長い間、お世話になるのであるから「通うのに便利であること」そして、「フィールドまで歩ける距離であること」でした。今年の1月に教育実習生として、お世話になりました時、条件にぴったりの印象を受け、こうしてお世話になることに決めた次第です。私の趣味は長い人生の中でいろいろ変わりました。若い頃は囲碁に、定年後は山歩きでしょうか、北海道の利尻山から九州の屋久島まで、夏になると家を空けて、いつも家族に心配をかけておりました。しかし体力の衰えには勝てず、最近ではおとなしく神社・仏閣めぐりなどを趣味にしております。本会の「明るく」「楽しく」「元気に」そして「無理をせず」の精神に共感し入会させていただきました。今後お世話になりますが、よろしく願いいたします。

即決の入会

中川 徹

大阪から奈良に移り住んで25年になります。勤務地は県外であったため、現役時代は奈良にはただ寝に帰るだけの生活でした。病気で現役を退き、休養の後、体力が回復するにつれ時間を持て余すようになりました。自宅近隣を歩きまわっているうちに「ならやま整備事業」の掲示に興味を持ち、たどりついたのはベースキャンプ前の案内板でした。掲示物を読んでいる時、そこに居合わせた会長さんに入会を勧められ即入りしました。

もともと自然大好き人間です。家庭菜園、薪作り、ビオトープ、ナラ枯れと、私が興味を持っているものが全てありました。自宅近くにこんな楽しい活動をしている団体があるとは驚きでした。参加させてください。

私と自然

中井 弘

シニア自然大学校の16期生として、自然について実に多くのことを学び、驚きと感動の一年でした。卒業後はマイスターや2つのサークルに所属しています。私と自然の関わりは半世紀に及ぶ登山ですが、山はひたすら登り崖を攀じ、谷を遡るといったスポーツのフィールドとしての存在だけでした。

定年後中国南京で促成ポプラの林業に携わり、一時期森の中の別荘に住みましたが、冬の寒さと夏の夜の虫や爬虫類の大群に悩まされ、昆虫の観察どころではありませんでした。現在仕事は現役で南京企業の日本事務所として貿易業務を行っています。趣味は書道、風景写真、古代史などですが、才能がなくどれもこれも中途半端となっています。

かねてから当会の見事な組織運営と多方面に亘る活動に関心を持っていましたが、青木先輩から勧められて入会させていただきました。

皆様のお仲間に加えて頂き感謝しています。

友人からの誘い

西村 光代

シニア自然大学校・緑組の卒業生です。今年同期で入会された西 慎二郎さんから折に触れ、時に当たり「ならやま景観整備」についてお聞きしていました。「奈良・人と自然の会」の雰囲気や会員さんの活動の様子、とりわけ都市近郊にこのような里山があるとは想像もできない程で、その魅力に取り付かれること間違いないよと紹介されました。全幅の信頼を置いている西さんの話を聞けば聞くほど「ならやま」そして「奈良の自然」に魅力を感じるようになってきました。

毎日ウォーキングをしている私は、ゆっくりとではありますが歩くことが好きです。また、花も好きなので是非とも楽しみたいと思っています。皆さんよろしく願いします。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

仲間入りしました⑤



はじめまして

城戸 加代子

「奈良・人と自然の会」のことは、シニア自然大学校（私は10期風組でした）が終わって間もなく活動をなさっていることは存じておりました。二上山からどんずる坊へ連れて行っていただいたことがあります。皆様お元気でとても疲れませんでした。

私は母の里が大和上市だったこともあり、幼い頃は夏休みになると上市や吉野へ行っていました。そういうこともあってか、奈良が好きで「大和の自然を愛します」と宣言されている所が、とてもいいと思っています。今回は同じ班だった川岸さんに「ネイチャーなら」を読むだけでも楽しいよ、とすすめてもらい、歴史のことも知りたくて入会しました。いろいろな所で素晴らしい活動をされており、充実ぶりに感心しています。

絵を描くのが好きで水彩画を習っています。どうぞよろしくお願いいたします。

平城山への一里塚

小山 喜与男

「新入会員歓迎会」、イラストを混じえた立て札に誘われて、会場に急ぐと既に焚火の薄煙のもと、準備体操が始まっている。

体操の音楽に合わせて歩きつつ、南側（左）を観て、遥か50年前の記憶が舞い戻った。「武蔵野」の雑木林だ。独歩が描いた「武蔵野」の林は、とうに消えていたが狭山（埼玉県）丘陵には健在だった。そこと背を接する東村山（東京・北多摩）は将に楢林であった。その一面に在る療養所で1年半に亘り、どん底の悲哀に打ちひしがれ、ベッドに臥した。

療養の一環として、散歩を義務付けられた。舞台は裏の雑木林だ。コナラ、クヌギの芽吹きから落葉への成長の姿に癒された。

いま、芽吹き間近の平城山の丘をみて、規模は劣るが、あの「武蔵野」の佇まいが脳裏をよぎる。幹事や会員の心憎いまでのお心遣いに支えられ、活動に一肌脱ぐ心境にある。

アウト・ドア大好きです 福田 美伸

15年前、工場へ単身赴任して山にハマり現在、百名山38座、三千m超11座クリア中のピークハンターです。昨年は北岳、仙丈、甲斐駒クリア。今年は穂高4座を予定。千Km/月目標にバイクトレーニングをしています。ホームグラウンドは鴻ノ池競技場、毎日ベースキャンプ前を通っているため、時々会員の方々の作業を見ておりました。

又、単身赴任中、ISOと遊休地：一万坪の有効利用を担当し、体だけがエラかったと今でも覚えています。ISOは別としても、遊休地3町歩以上を如何に活用するか？余りにも大変でした。色々と案が出、その結果、手のかからない草類を植えることになりました。ケナフ、ゴマ、ヒマワリ、綿花、豆類、蕎麦、ミント等、1町歩単位で植えた結果、収穫が大変でした。金を払い農家に依頼しました。蕎麦、ミントは大量にとれ金になりました。そんなことも経験したので、すばらしいこの会に入りました。

入会のきっかけ

門馬 金秀

今参加している合唱団のメンバー、谷川さん・隅田さんに蕎麦打ちに行かないかと誘われ、4月から毎日日曜になるのでやってみようと思って参加しました。行ったら世話役の寺田さんが元合唱団のメンバー、又蕎麦打ちのみなさんも親切で、楽しい時間を過ごしました。これをきっかけに会に加入致しました。

趣味ですが、混声合唱団・男性合唱団・他イベントで「ムジークフェストなら2013」も参加。6月は3回のコンサートがあり、練習が詰まっております。家庭菜園も昨年からの市の土地を借りて頑張っています。じゃがいも・里芋・トウモロコシが芽を出しています。イチゴが赤く今日は初めて自家製を食べました。女峰・とよのかの2種類です、とても甘く美味しいです。

又、昨年は、まくわ瓜・しま瓜・甘瓜に成功したので、家内から注文のスイカに挑戦しています。菊作りはもう15年になります。秋は3本立ての大菊・管物・嵯峨菊と家の周りは菊一色になります。団地のみなさんいろいろな花を楽しみに、家の前を通っています。

仲間入りしました⑥



入会の切っ掛け

辰巳志津子

よろしくお願ひします。この会を知る切っ掛けは、剪定の木をチップにするからということと搬入させていただいたことです。色々な野菜が育てられていて感動いたしました。自然豊かなこの場所で多くの作物を栽培し、会員の皆様方と楽しく勉強し、各種のイベントにも参加させていただければと思っています。何も分からない私ですが、よろしくご指導ください。

ミツバチ

池田 幸夫

ミツバチの飼育をやっています。昨年、ならやまのフィールドに養蜂箱を置かせてもらえないかと、岸谷さんを通じてお話しさせていただきました。ご検討いただきました結果、まず1箱をとのことでしたので、今春ベースキャンプのシンボルツリーの柿の木の上に据え付けました。分蜂が巧くいくかどうか気がかりでしたが、どうにか順調なように思われます。スズメバチなどの対策が大切で、最初の一匹を退治しないと全滅の恐れがありますので、定期的に観察をしていくつもりです。よろしくお願ひします。

自然の豊かさ

奥谷佳由里・久那子

大阪城の近くから奈良市内へ引っ越して約1年余りが経ちました。生駒トンネルを越えると、まるで別世界にきたような印象を受けました。グレーゾーンからグリーンゾーンへ、癒しの空間に包まれての日々。自然の豊かさが心の安らぎをもたらしてくれます。

ある日、ふと立ち寄った奈良市ボランティアセンターで、「ネイチャーなら」が目にとまりました。素晴らしい活動しておられることを知り、母共々入会しようかなと考えていた時、センターの方からの勧めもあり飛び込んできました。よろしくお願ひします。

素晴らしい里山の自然 山本 妙子

JR大和路線が天王寺を過ぎて大和川沿いに峠を越える頃、それまでとは全く別の景色が車窓に広がります。川沿いの桜並木、ブドウ畑、幾度かのトンネル、田園風景…とまるで「小さな旅」気分、コンクリートの街から平城山へと向かいます。

この度、この会に入会させて頂きありがとうございました。以前から会員の方より里山の四季折々の風景や、楽しく活動されていることをお聞きしておりましたが、初めて参加させて頂いた日も、皆さん生き生きとお元気な笑顔がとても印象的でした。

素晴らしい里山の自然とその整備には、多くの時間とご苦勞があったと思います。畦道の小さな花々が子供の頃の自分を思い出させてくれますが、これから少しずつ勉強させて頂きたくよろしくお願ひ申し上げます。

色々な体験を

上田 章子

奈良は生まれ故郷でもあるので入会しました。

私が幼少の頃、近くの大和神社に母に連れられてよく参拝しました。とりわけ4月1日のちゃんちゃん祭りの時には、祖父が一番先頭を歩いていたので今でもはっきりと覚えています。緑に囲まれた癒しの空間とも言える大和青垣の麓という環境で育ったこともあり、憧れの地でもある奈良で活動したり、歴史探訪や自然観察などの色々な体験ができることを楽しみにしています。

参考までに、「ちゃんちゃん祭り」は大和の祭り始めで、春日大社の「おん祭り」と共に大和の代表的な祭りです。お渡りに青銅で鑄造された鉦(かね)を叩いて、チャンチャン鳴らすので、「ちゃんちゃん祭り」と呼ばれています。



Monthly Repo. ならやま

◆4月25日(木) 晴れ 61名+6名

県の風致景観課から佐保自然の森に植栽されたユキヤナギの除草に来られたので、当会からも草刈り隊が出動して草刈りを実施。

また、フラワーロードへのヤマブキ、ビヨウヤナギの植え付けも実施。

里山グループではならやま里山林の枯死木、かかり木の伐採整理を開始。

農園グループではナス・トマト・サトイモ・宇宙イモなど夏野菜の植え付け。

ならやま池ではアオミドロとの戦いを継続。佐保自然の森への安全なルートが県から示され、道案内テープで明示。

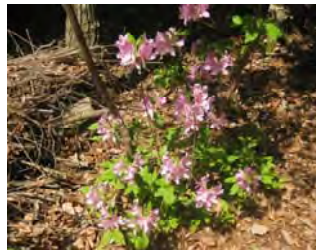
天平祭の出し物として子ども達に喜んでもらおうとコイノボリ工作をすることになり、材料の下準備におおわらわ。

◆5月2日(木) 晴れ 63名

朝からカラスが大挙して襲来した。何か魅惑的な獲物でもあったのだろうか？

里山グループでは枯れ木の処理と皆伐林のコナラの処分(薪づくり)が続く。

コナラ・クヌギ林つくりに向けて、昨年秋に播種されたこれらの幼木を苗畑に植え付け。



農園グループではシシトウ・ピーマン・シヨウガ・スイカなどの植え付け。

景観グループでは先週の続きで佐保自然の森の除草、午後は彩りの森の除草も開始。

ならやま池では生物調査が行われ、アオミドロとの戦いを継続。

タナゴ池では水がよく澄んでおり、バラタナゴがめだかの学校のように集団で泳いでいるのが観察された。

◆5月8日(木) 晴れ 13名

自転車道の東詰めの県有地で開催された県主催のグリーンキャンペーンの植樹祭に参加。

奈良トヨペットからの提供苗木をトヨペット社長、ミスインターナショナルグリーン大使、県景観課長、当会会長で記念植樹を実施。

◆5月9日(木) 晴れ 58名+1名

里山では先週の継続作業。

農園ではサツマイモ、ニガウリの植え付け、キヌサヤエンドウ・サヤエンドウの初収穫と試食。甘くて美味しかった。

景観では彩の森の除草、アオミドロ掬い。花では山草園の除草と施肥。

東池の東面に簡易駐車場が作られた。

松林でハルゼミの初鳴きが聞かれた。

◆5月16日(木) 晴れ 59名+6名

朝一番に佐保台小学校の放課後教室のスタッフが挨拶にみえた。また、午後には奈良トヨペットの秘書室からスタッフがみえ、我々の活動と何らかの繋がりが出来ないか検討された。

里山、景観は先週の継続作業。

農園ではトマト・ナスの支柱づくり。

ジャコウアゲハの産卵が見られた。



(木村 裕)



* ペタキン日記 ⑬ *
羽尻 嵩

ならやま花だより
吉村さつき

5月16日(木) この時期のならやまは唱歌「わかば」とぴったりで、さわやかな緑に心が豊かにされます。

会員さんより、教えていただきました。タンポポはどこでも見られる花ですが、寒い間は葉をロゼット状に広げ風を避け葉一面に光を浴びます。花茎が伸び花が咲きます。咲き終わると次の花に光を譲るように花茎を横に寝かせ種ができるのを待ちます。そしてこの時とばかり花の頃よりも茎を少し高くして立ちます。綿帽子となって遠くへ飛んでいきます。なんて不思議で賢い花だと思いませんか？

植物にまつわる面白い話があればぜひ教えて下さい。皆様と共に楽しみたいと思います。



【草花】 タンポポ、スイバ、コメツブツメクサ、シロツメグサ、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、ヤブジラミ、ツボスミレ、アメリカフウロ、ノミノフスマ、スズメノテッポウ、キュウリグサ、ハハコグサ、オニノゲシ、オニタビラコ、ハルジオン、レンゲ、ムラサキケマン、トウバナ、イヌガラシ、タチイヌノフグリ、コナスビ、イ、ニガナ、キツネノボタン

【木の花】 ツクバネウツギ、オトコヨオゾメ、コバノガマズミ、カマツカ、サワフタギ、クサイチゴ、モチツツジ、ニセアカシア、アキグミ、ズミ

【花壇】 ヤグルマギク、ジャーマンアイリス、アイリス、キンセンカ、パンジー、スズラン、ニゲラ、ヒメウツギ、シラン、アマドコロ、イチハツ、ムラサキツユクサ、十二単、アヤメ、キショウブ、ユウゲショウ

<ビオトープ池考> 第2回

都会では、1990年代ごろから、急速に失われていく水辺空間と水生生物の復活を願い、学校・企業・公園・官公庁などでブームのように溜池ビオトープ造りが始まりました。

しかし、今やブームが去り、それらの多くは放置されてきています。取り組みのどこに問題点があったのでしょうか。まず一つ目の問題点は、後継者の不在という点です。大半の溜池の維持管理は創始者の熱意で支えられていましたが、後継者不在でそれが出来なくなったのです。時の流れの中で、水辺で遊んだ経験を持たない世代層が増えてきたことも後継者不足と関係があります。

水辺空間とそこに棲む生物の存在の大切さに関心のない人からみれば、池の維持管理費や人件費は不必要な出費とみなされます。その結果として当然、放置されていく溜池が増えていったのです。

二つ目は、溜池の水の確保の問題点です。河川の水の利用には水利権の取得が必要なのです。河川の水は、昔からの慣行により地域ごとに農業従事者に割り当てられてきました。また近代になってからは、工業用や発電用の水は産業発展のため、河川管理者（行政府の首長）の許可で認められるようになりました。

しかし、一般市民が溜池ビオトープに河川の水をひいてくる申請を河川管理者に出しても簡単には許可は下りません。その大きな理由は、その地域の水利権を持つ水利組合の了解が難しいからです。しがって、市民が溜池を作ろうとする場合には、雨水や水道水に頼らざるを得ず、維持管理に経費かかりすぎて、敬遠されることになるのです。

(続く)



☆ハラグロオオテントウ☆

菊川 年明

ハラグロオオテントウは毎年5月10日前後にベースキャンプ前の大きなクワの木にやって来る。このテントウムシはわが国産のテントウムシ仲間の最大級のもので、棲息域が局地的ということもあってかなり珍しい昆虫である。加えて、ならやまでの出現期間はたいへん短く、約10日間くらいかと思われる。

体の地色は橙色で、これに16個の黒紋(胸部2個、腹部14個)がある。とても大きなテントウムシで、体長は約12ミリメートルである。テントウムシは大方が円に近い体形をしているので、直径が約12ミリメートルという感じでもある。普通に見慣れているテントウムシはナナホシテントウやナミテントウであるが、彼等の体長は5~8ミリメートルくらいなので、これを基準に見ればハラグロオオテントウばびっくりするほど大きく感じられる。

このテントウムシは幼虫も成虫もともにクワの木につくクワキジラミ(セミやカメムシに近い微小昆虫)やクヌギのひこばえにつくアブラムシを捕食している。クワを栽培する養蚕農家にとっては益虫である。

名前についている「ハラグロ」というのは腹部の裏面が黒いことからであるが、人間の世界では「腹黒」と言うのは心がけの良くないことを指す言葉なので、イメージの悪い気の毒な名前である。

今年は5月8日に数頭を確認した。



ならやま自然の森・観察路

有元 康人

今回の観察ルートは1コース(外周コース)です。目的は、1コースの状況確認 ②、カシノナガキクイムシの被害状況の確認です。メンバーは、辻本・有元・(新会員)足立・(新会員)山本の合計4名。

(観察結果)

- ◆1コースの入り口付近で紙等が散乱していた。
- ◆6番~7番の間のルート上でコナラの木の枝が枯れており、落下した場合、通行時に接触のおそれがあり対策方法を検討が必要だと思えます。
- ◆カシノナガキクイムシの被害は、ルート上では見受けられなかったが、今後も観察を継続します。

(ルート状況・感想)・

今回のメンバー2人は1コースのルート内容が良く分かっておらず、地図を見ながら手探りで廻ってきました。新会員(足立さん、山本さん)には、ご迷惑をかけ申し訳ありませんでした。

森の中に入りコシアブラを見つけた山本さんから感激してもらったり、サカキ・ヒサカキ・シキミの違い(葉の裏側の脈あり、なしや葉の周りのギザギザ等)を辻本さんからレクチャーを受けたりしてコースに入って行きました。ポイント3番~4番の間でノリウツギの開花やコシアブラの花芽を確認しながら、5番のオオタカの辻を通過して6番~7番の間で、報告したコナラの枝の立ち枯れを確認し、ソヨゴのトンネルを抜け右に下り、9番を登って行きました。それから公道に出て行き、道端のスイバ別名スカンボのふさの中の数ミリの花を美しく感じられる感性をお持ちのメンバーに感心し、キュウリ草の臭いを嗅ぎながらその臭いを再確認している自分を冷やかに見つめたりしながら進んで行きました。

午前中草刈りをした公園を横目に見て、再度森に入って行きました。里山グループの方が低木を刈っている様子を見て美しい里山とはこのような活動の基に成り立っているのだと実感しました。

今日のパトロールで感じた事はパトロール隊の活動を通じてこの森の魅力を打ち出し、観察し、警告、整備していくことでさらに良好な自然の営みを引き出せるのではないかと。それをタイムリーに会員の方にお知らせすることが大事なのではないかと思っています。最後に新人の足立さん・山本さんが今日のパトロールを通じて、パトロール隊に入っていたことになることになりました。

新緑の宇治植物公園を訪ねよう!

5月例会 (自然教室チーム担当)

日時: 5月14日(火) 10:00~13:45

参加者: 29名

幹事: 倉田、平岡

この日は前日の真夏日に続き30℃を超えよかという暑さになりましたが、29名の方がこの観察会に参加していただきました。

まず午前中の1時間半程の時間で植物園の職員の方に見どころ案内をお願いしました。

タラヨウ(字がかける葉、郵便局のシンボルツリー)、オトコヨウゾメ(花序が下向きに垂れる、乾くと花も葉も黒くなる)、サワフタギ(ルリ色の実)、カラタネオガタマ(バニラの香りの花)バンクシア(山火事の刺激により種がはじける)等樹木を中心に解説してもらいました。



花と水のタペストリーではジオラマやハボタンなどの花材のプランターが幅6.2m高さ1.8mの壮大な階段に並べられ、カワセミが描かれていました。

つづいてハーブ園では、様々なラベンダーやタイム類、カレーの匂いのするカレープラントなどいろいろなハーブを見て回りました。さらにバラ園にも立ち寄り、丁度、昼食の時間となりました。

午後一番は自然教室チーム担当らしい自然観察会となりました。自然教室チームスタッフがツツジの花を見て、蜜標(上方の花弁にだけある斑点・昆虫に蜜の在り処を教える)があることやツツジを躑躅(てきちよく)と書く由来を解説。中国で毒性のあるレンゲツツジを羊が誤って食べたところ、足踏みしてもがき、うずくまってしまったと伝えられ、このようになることを躑躅という漢字で表わしています。

そこで中国ではレンゲツツジの名に躑躅を当てますが、日本では中国での名称躑躅がいつの間にかツツジ全般を指すようになったと考えられています。



そのあと、別のスタッフが年に一度枝分けするたびに新しい枝が必ず3本に分かれることから「ミツマタ」と名付けられた中国原産のジンチョウゲ科の落葉低木を解説。

春を告げるように、淡い黄色の花を一斉に開くので、サキサクと万葉歌人は詠みました。

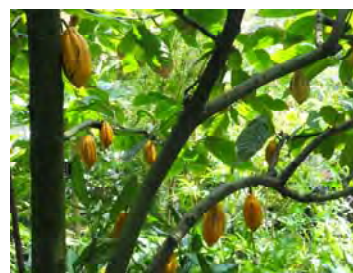
(三枝[さいぐさ、さえぐさ]という姓の語源とされる。)

「ミツマタ」が和紙の原料として表れる文献は、徳川家康の時代であり、その後明治になって紙幣に使用されるようになりました。



最後は温室を職員の案内で見て回りました。

タビビトノキ(大きな葉が一方に向いているので方位を示す、あるいは根元の所にある水で旅人が喉を潤したとか)、カカオノキ(長楕円形で縦溝が明瞭な大きな果実が太い幹に直接つく。ココア、チョコレートの原料)、などの説明を受けて、不思議いっぱいの花や木や葉さらに果実を楽しむことができました。



真夏のような日差しが照りつける中での観察会となり、終了後に予定していた宇治平等院近辺の散策希望者もなく、少々お疲れぎみとなりましたが、新入会員の参加もあり、賑やかで楽しい観察会ができたと思っています。

(高本 実男)

天平祭・春のイベントに初参加

こども広場大いに盛り上がる！

平城京天平祭実行委員会の要請を受け、5月3～5日の3日間、平城宮跡のものづくりこども広場にはじめて出店しました。当会の出し物は自然工作「こいのぼり」「ペンダント」「ブンブンゴマ」の3点セットで、スタッフ延べ53人の参加をいただき400セットの提供が出来ました。他に13ブースの出店がありました。

第1号のお客様は小一の可愛い女の子で、こいのぼりに挑戦、これを見て少しずつお客様が入り、仕上げの頃には人だかりです。それを見て奈良TVのクルーが撮影に貼りつき、ますます参加者が集まるといった次第です。

ブースの4テーブルでは対応できず、向かいの共同ブースの4テーブルを借りてペンダント、ブンブンゴマに取り組んでもらいました。

これでお客様の流れでき、予定の108セットは3時には終了してしまいました。

2日目も子どもだけでなく、若い夫婦、老夫婦もこいのぼりに魅了されて挑戦します。メインの鯉の鱗書きは出来るだけ自由にお願ひし、皆さん思い思いのタッチで楽しんでいただきました。子どもを見かねて製作に奮闘するお父さん、お母さんの場面もありました。子どもを見守るお父さんが「息子のこんな熱心に取り組む姿を始めてみました」と日頃見られない子どもの一面に喜びを噛みしめておられました。



3日目、スタッフも初めての自然工作対応にオロオロでした。2人3人と相手をするうちに段々慣れて、出来るだけ子どもの発想で取り組んでもらうようにお手伝いをしています。[おじさんありがとう]「おばさん楽しかった」と満足感あふれ、うれしそうな顔でお礼を言われて、スタッフも大感激でした。

他ブースの店主が「あの会は奈良県で一番大きな自然派のボランティア団体だそうです。さすがにすごいですね。動員力があり、皆さん生き生きと楽しそうに活動されていますね。」との事でした。

主催者のこども広場の責任者からも、「沢山のスタッフの方にご参加いただき、人の流れができ他のブースにも良い影響がでて、広場全体を盛り上げて頂き有難うございました。」とお礼を言われました。



こいのぼり、ブンブンゴマやペンダントを持つ子供らに魅せられ、お客さんの絶え間がなく3日間とも3時過ぎには提供ストップの大好評でした。スタッフの皆さん、見学に来られた皆さん有難うございました。

当会として自然工作チームの組織を更に充実させ、行事に臨むことの必要性を痛感しました。仲間には素晴らしい、ものづくりアイディAMANと工作リーダーがいます。個人的な負担に任せることなく、みんなで楽しい自然工作チームにしましょう。（塩本 勝也）

“人の心は緑の憩いを”

ふれあいグリーンキャンペーン記念植樹が、5月8日、ならやま自然の森北側、ならやま大通りと自転車道に囲まれた地で行われた。

菊池武之祐奈良トヨペット株式会社社長、緑の大使の高橋有紀子さん（2013ミスインターナショナル日本代表）、福住芳風致景観課長、当会の藤田秀憲会長の4人で、ヤマモミジとソメイヨシノを植樹、その後1本ずつ会員達が丁寧に植樹した。



植樹する菊池社長と高橋有紀子さん

このキャンペーンは、全国トヨペット株式会社・トヨタ自動車株式会社が主催し、緑豊かな街づくりをめざし、地域に根ざした社会貢献活動として、(社)国土緑化推進機構の協賛を受けて1976年より毎年実施しており、今年で38回目を迎える。2011年からは「Green Life応援活動」の一環として実施している。昨年までは、寄贈式のみであったが、今年から各地で植樹式も行うことになった。(鈴木 末一)



第12回通常総会報告

平成25年5月11日(土)奈良市中部公民館で第12回通常総会が開かれた。

八木幹事の開会の辞で始まり、出席者42名、委任状提出者62名、計104名との出席者数報告があり、会員総数146名の過半数を満たし、本総会は成立した旨の宣言があった。

冒頭、藤田会長より本総会での盛んな議論をお願いし、今後とも「明るく、元気に、楽しく、そして無理をせず」を基本に活動を進めていきたいとの挨拶があり、議長選出後、議案の審議に入った。



各議案とも審議の結果、承認され、会則の一部改定とともに役員辞任に伴う補充役員1名と役員増員に伴う新役員2名の選任も承認された。

なお、議案審議の途中ではあったが、鈴木氏より、「本日合唱練習会のため、たまたま総会開催場所の奈良市中部公民館に来ていた佐保台小6年生の児童が訪ねてきてくれた。昨年のならやまでの稲作実習と観察という体験学習を通じての交流が実を結んでいる感じで嬉しい。一層励んでいきたい。」との感想が披露された。

議事終了後、新役員3名の紹介があり、本日の総会は無事終了となった。

総会終了後、ならやま景観整備の活動報告会が開催され、木村 裕氏の「カシノナガキタイムシのトラップ調査」、羽尻 嵩氏の「タナゴ池の1年」と題しての講演があり、参加者一同熱心に聞き入っていた。

(高本 実男)

自然教室チームだより

6月の自然観察会・平城宮跡

初夏の草花が咲き競う良い時期です。楽しい自然観察をしましょう。自然教室チーム以外の皆さんも奮ってご参加ください。

1. 日時：6月11日（火）10時～15時
2. 集合場所：西大寺駅南口 10時
3. 持参するもの：食事、飲み物、観察用具、図鑑（あれば）、雨具
4. 担当：辻本信一、平岡久美
5. テーマ：平城京跡における初夏の自然観察

* 鹿により食べつくされたり、矮小化が進んだ奈良公園の植生との違い観察



* 春先に開花し受粉した花の結実準備…植物の営みを観察

* 植物と共生をはかる 虫達や小鳥達の姿はどこに？

7月の自然観察会 矢田丘陵の自然観察

昨年11月に指導していただいた御宮知伸彦さんに大和民俗公園近辺の初夏の自然観察を再度指導していただきます。昨年同様多彩でびっくりするような自然観察を楽しみましょう。



1. 日時：7月3日（水）9時～14時（サマータイムで実施）
2. 集合場所：大和郡山市 少年自然の家入口

※ 詳細は7月号でご連絡します。

自然教室チームでは、毎月自然観察会を行っています。参加は自由です。一緒に自然観察を楽しみましょう。

子供と共に自然を楽しむための講習会

（インタープリテーション入門講座）

最近の子供たちは自然に接することがとても少なくなっていると言われていています。私たちシニアの世代は自分たちの子供時代を思い出し、少しでも子供たちが自然に接するように応援をしていきたいものです。

私たちのそれぞれの活動の機会を通して、子供たちが自然の不思議や魅力に接し、自然に親しむ、自然が好きになってもらうことができれば素晴らしいことでしょう。

そうした時に少しでも役に立つ自然観察の進め方について講習会をいたします。五感を使った自然観察や自然遊びを中心に展開しますので、皆さんのご参加をお待ちしています。

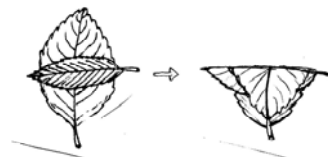
1. 日時：7月9日（火）10時～15時
2. 場所：ならやま
3. 担当：自然教室チーム
4. その他：参加いただく方は資料の関係もあり下記までご連絡ください。
倉田 晃

自然遊びを楽しみましょう!!②

すぐできる笛を鳴らしてみましよう。葉っぱ2枚を使った笛です。

1. ツバキなどちょっと硬めの葉っぱとスイバなどの柔らかい葉っぱを用意する。
2. 図のように葉っぱを十字型に重ねる。

3. 硬い方の葉っぱの両端を口に深く入れて吹くとブーと音が出る。



やさしい昆虫講座(32) 蝶の食べ物は？ 木村 裕

蝶と言えば、菜の花畑に舞うモンシロチョウ、「ならやまベースキャンプ」のウマノスズクサで繁殖しているジャコウアゲハ、ヤブガラシの花に集まるアオスジアゲハ、ナミアゲハなどを思い浮かべることでしょう。

蝶と同じ仲間でありながら、蛾と言えば嫌な顔をされ、蝶と言えばきれいで愛らしいイメージをもたれ、差別待遇が激しいようで、蛾の組合からも激しい抗議が届いています。皆さん蛾も愛でてあげましょう。

では、蝶（成虫）の食べ物は何でしょうか？すぐに花の蜜と答えられることでしょう。正解ですが、花の蜜以外にはどんな物があるのでしょうか？日本の国蝶にもなっているオオムラサキ（切手にも採用）はクヌギなどの樹液が大好きで花を訪れることはありません。

キマダラヒカゲも同様で、クヌギの餌場でズメバチやカブトムシと鉢合わせすることも珍しくありません。気が弱いのか遠慮ぶかいのか、いつも彼らに一等席はゆずっているようです。

変わり種では、熟して腐敗しかけの果物から汁を吸うタテハチョウ類、路上の馬糞からジュースを吸うキチョウがいます。もちろんこれらの蝶は花蜜も吸います。

テレビ放送や昆虫図鑑には川原や湿地に集まって水を吸っている蝶の集団がよくとりあげられています。これはすべてオスの蝶でメスはやってきません。原因は？？分かっていません。また、暑い夏歩いているとき、あるいは休憩したときに手の甲や腕、時には額にとまって汗を頂戴する人懐こい蝶もいます。

蝶のお子様（幼虫）はご存知でしょうか？キャベツの葉を食べるアオムシがモンシロチョウの子供であることを知らない人はいないでしょう。アゲハチョウ類の子供は、緑色のアオムシで頭をナゼナゼするとニューと黄色の臭い角を出すのが特徴です。

家庭菜園で最も馴染の深いのはキアゲハで、ミツバ、パセリ、ニンジンなどの葉にいつの間にか卵を産みつけ、産まれた幼虫は葉をもりもり食べて成長しています。

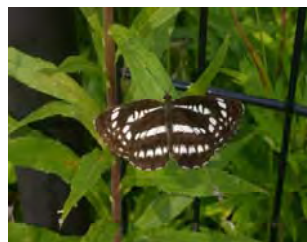
基本的には蝶の幼虫は植物の葉を食べるので、家庭園芸愛好家からは害虫として目の敵にされています。スマレ類のツマグロヒョウモン、ホトトギスのルリタテハなど。しかし、ほとんどの仲間は樹木、野草の葉を遠慮深く少しずつ食べていますので、お目にかかる機会は少ないでしょう。

幼虫の変り種は、ゴイシジミの幼虫です。日本では唯一の肉食性で、ササ林に発生するアブラムシ類を食べて成長します。また、ムラサキシジミの幼虫は背中から甘い分泌液を出すのでアリが回りに集まって用心棒になってくれますので、クモやテントウムシなどの強盗に襲われる心配がありません。

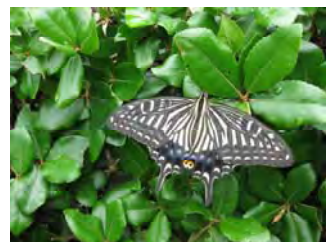
安全な住処と食事を与えられる蝶の子供はゴマシジミの幼虫です。ワレモコウの花を食べながら成長し、大きくなった幼虫はアリに招待されます。快適な彼らの巣でアリの子供や卵を失敬して成長しますが、体から甘い汁をだすので大切な客人として扱われ追い出されることはありません。

一方、クロシジミの幼虫は、アブラムシ類の分泌液を食べて成長しますが、ある段階になるとアリさんからの招待を受け、アリの巣の中でアリからご馳走をいただき浦島太郎のように飲めや歌への生活を続けます。そのお返しとして体から甘い液体をだし、アリに喜んでもらっています。

人の世界でも、小さな頃は普通の食事をいただき、ある程度大きくなると食生活を変えてアルコールのみで生きる人もいるようですが。



【ホシミスジ】



【ナミアゲハ】

そちこちのなんじゃもんじゃの花に酔ふ

阿部和生

初投句。馬見丘陵公園での作。素直な写生句。
ヒトツバタコより異称が面白い。ひととき魅了された様だ

大鱧^{ひれ}は進化の途中にて琉金

川崎和江

郡山金魚資料館での作。琉金は胸ビレ尾ビレが目立つ。
中七・下五の句またがりにして、名詞止めが味を出す。

屋久島の神のほほえむ卯月かな

西谷範子

四月、屋久島へ行かれたとか。私も経験があるが、
屋久杉の森厳な様相は、トトロが出てくる様な畏怖を
感じる世界。基本に忠実な骨法にゆるぎなし。

見えずとも赤き口開くひなつばめ

西谷範子

自然界の親子の絆が表出されて佳し。
仰ぎ見るつばくろの嘴にイメージが広がる。

自然俳句

監修 川井秀夫

賑^{ちまた}ひて虫の衢^{ちまた}や五月梅

古川裕司

気温上昇。梅の木にも虫たちの葛藤が始まる。
梅の生育に心痛める作者。衢は虫の行き交う道のことか。

天平の貴人しずしず祭かな

八木順一

天平祭に初参加。作業の合間に見る祭風景。
奈良朝の官人の衣装に目がとまる。

茄子苗の綺麗な時間過ぎてゆく

川井秀夫

今年も茄子のシーズンが来る。小さなうちは可愛いもの。
薫風に揺れる若木に、成長を願う。

青みどろ掬うあとから嘲笑ひ

川井秀夫

なら山新池。「青味泥」の除去に手をやく。
畦から網で真似事をするが難儀なものだ。
根治対策が待たれる。





廻る白い風車のように



谷川 萬太郎

- (1) 人は誰もが移りゆく季節の中で何かを思い
ふと寂しさに心揺れて我に返る時がある
時に、故郷の思い出を探しに出かけようか
山肌に我らの後姿を映しながら進みゆく
五月の青い空よ！白い雲よ！潮風に乗ろう
喜びも悲しみも大きな一つの輪になって
廻れよ廻れ天高く廻れあの白い風車のように
- (2) 逢いたかったと 寄せては返す白波が
遠くで手をふり嬉しさに白いしぶきをあげる
見渡す山の端は霞の中に緑深くして
山辺の水も青葉に澄みてツバメ飛び交う
裳裾も麗し早乙女の菜の花畑に匂うかな
喜びも悲しみも大きな一つの輪になって
廻れよ廻れ天高く廻れあの白い風車のように



「主婦は忙し」

竹本 雅昭

- シジュウカラ：どうしたんですお上さん。ポー
としてたら落ちませ。
- コゲラ：これがポーとせずにはおれま
へんえ。午前中、巣作りで腹がへっ
たよって食事に行きましたんだす
ほんでさっき帰ってきましたらど
うですえ、やりかけの巣の木が倒
されてますがな。
- シジュウカラ：それは殺生でんな、どないなっ
てまんねんやろ。
- コゲラ：それが人々にとって危険な枯木
を、バッサバッサとチェーンソー
で処理したはりますんどすえ。
- シジュウカラ：それでこれからどないしゃあり
まんねん。
- コゲラ：それですがな、縄張や鳥などとバ
ツティングせん所を捜さなあきま
へんのどす。
- シジュウカラ：子育ての時期だけに忙しいこと
でんな。
- コゲラ：おゝきに。ところであんたはん
の巣箱は人々がウロウロする低
い所にあるけど大丈夫なんですか。
- シジュウカラ：あてももっと見晴しの良いとこ
と思ってたんですけどね、主人
がせっかちなもんで、のんびり
してたら玉子がうまれてしま
いますやんか、ほんで古いけど我
慢してまんねん。
- コゲラ：そうでしたんか、うちの主人は
お宅とは反対やから間に合いま
すやろ。
- シジュウカラ：人々はえゝ人ばかりやさかい
悪う思わんときなはれや。



青垣春秋

隠れ古社寺 ひとり旅 ㊸

歴史文化クラブ

十二神社・夜都伎神社

川井 秀夫

5月17日。天気は抜ける様な大晴れである。風薫る風情は過ぎて、薄暑の趣が強い。

JR桜井線長柄駅下車。大和青垣の連山に向け、東へ緩やかな道を進む。168号線を越えると一面の柿畑。柿若葉が五月の陽光に照り映えている。大きな石碑に『刀根早生種発祥の地』の刻字が目に入る。渋柿の優良種として、富有・平核無と並ぶ、日本三大種として柿産業の発展に寄与していると言う。菅生町 刀根淑民氏の功績を称える。



間もなく山の辺の本道へ入る。菅生・竹之内環濠集落を経て北進。この辺り『菅生の千塚』と呼ばれ、西山・大塚・東殿塚の後円墳、下池山・波多子の後方墳が画的に散在し、畠田陵を中心に大和古墳群の中核の地である。

更に北進。今日のお目当て十二神社に向う。本道から離れ、山麓の畑地を登る。途中、畑仕事の老爺や老婦から声がかかる。

「どちらへ行きはりますねん」と訝られ、「山の辺はあっちでっせ」と、迷いこんだ人に、間違えられた様だ。「いやいや十二神社へ行くんですよ」「そしたらあそこを右へ、電柱のところを左へ行きなはれ」と。

ご親切な素朴な受け答えに恐縮、恐縮の態。

連山の西に突き出たこんもりした森に着く。照葉樹林の第一級の社叢である。入口に扁額を掲げた石の鳥居を潜り、小曲りの石段を登ると境内広場を隔てて拝殿が見える。

拝殿は瓦葺きの切妻造り、昨年改築して木の目があたらしい。本殿は一間社春日造りで、天地創成の第一神、国常立尊ほか十二神を祀る。

帰り道、畑仕事の老婦と立ち話。昔話を教わる。「私はね、この地で生まれて83年」いろいろ身の上話が始まる。

乙木町と竹之内町の間で領地交換があり、乙木所領の二つの神社の一つを竹之内に譲り、竹之内所領の三間塚池と換地したのだと言う。

農地の灌漑用水がいかに重要であったか、氏神さんの身売りとは驚きである。

その十二神社に『砂かけ婆』と言う怖い女がいる噂から、私の子供時代は行かなかったとか。

私の幼児の頃、都会でもあそこへ行けば『赤マント』を着た怖いおじさんが居ると、今から思えば夜の外出禁止令だったようだ。

老婦の印象的な姿を後に、本道に戻り夜都伎神社を訪ねる。太鼓山と言う丘に鎮座する。春日の四神を祀る。昔は春日神社の呼名であったが先述の換地の際、名称が変わる。拝殿の藁葺きが珍しく印象に残る。

鳥居は春日杜から下賜されたもので、毎年蓬の御供えの返礼としてと伝承にある。

二つの古社を巡り、古代大和の人々の信仰の深さに改めて共感を覚えた一日であった。

歩程2万余歩。連日の行動に山の神から厳重なるご注意。我ながらよくやるわ・・・。

自戒。





Gallery
ならやま

「奈良公園の杉」 有元康人

(大沢教男)

- ① シュロの葉のバッタ
- ② 犬と散歩する人

(鈴木末一)

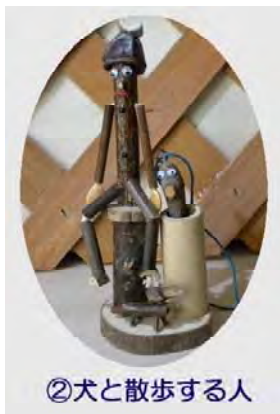
- ③ 椅子と人形
- ④ 椅子と鼻

(田中克彦)

- ⑤ 亀
- ⑥ 鼻
- ⑦ 龍
- ⑧ パンダ
- ⑨ トトロの森



①シュロの葉のバッタ



②犬と散歩する人



④椅子と鼻



③椅子と人形



⑤亀



⑥鼻



⑦龍



⑧パンダ



⑨トトロの森



蕎麦の味

③

福田 美伸

蕎麦の味を知らなかったところに、非常においしいと言われている手打ち蕎麦を食べて驚いた。そばの色が白いので、うどんを食べさせられたような気がしておいしいとは感じなかった。そばとは茶色いものと思い込んでいたからで、蕎麦の香り、味について分からなかったのか、本当に香りの無かったそばであったのか定かではない。

また、大晦日になるときまって父方のばあさんが蕎麦粉をかついで家に来た。

このことが何度も続いたように思う。半日ばかりで蕎麦を打ち食べさせてくれた。

太くてごつごつとした手、しかも爪の間は真っ黒... その手で、丸いちゃぶだいの上で蕎麦を打つわけであるから、子供心ながらそばはまずくて気持ちの悪いものと決めつけ、大学に入るまで蕎麦はどうしても好きにはなれなかった。今思うとあの手打ちそばが本当の蕎麦であったのかも知れない。

大学時代に駒沢公園の近くに下宿していたことがある。渋谷の五島会館で映画を見て帰りにその二階にある更科そばでてんぷらそばを食べた。駅の立ち食いそばしか食べていなかったの、40円（当時立ち食いのてんぷらそばは40円であった）ぐらいで食べれると思って入ったわけであるが、お金を払うとき200円ほどしかない... 更科のてんぷらそばはその時すでに200円を越えていた。お金が足りずわけを話したところ、主人は心よく「足りない分は今度持ってくればいいよ」と言ってくれ、バス代もないので下宿まで5km以上歩いて帰った。途中何度も

「何と高くてんぷらそばなのだろう」と思ったが、その時そばは確かにおいしいものであると感じた。そんなことがあって以来、だんだんと蕎麦が好きになったように思う。

素人がそばを打つのは大変難しい。十割そばを打とうとして現在奮闘中であるが、どうしても短く切れてしまい、ざるそばをスプーンで食べることはよくある。そばは長くつながっていないと話しにならないので、八割そばを打って楽しんでる。

蕎麦を打つにはまず道具が必要である。「一鉢二延ばし三包丁」と言う言葉があるくらい重要である。あとはその道具をいかに使いこなすかである。

おいしい地粉とおいしい天然水で作ればおいしく食べれるが、つなぎ粉の割合、水加減さばき方、練り方、まとめ方、打ち粉の量、延ばし方、切り方等それぞれ難しい。蕎麦粉とつなぎ粉はよくふるいにかけてのものの方がつながり易い。

蕎麦粉とつなぎ粉をよく混ぜ、お湯を約40%（例えば：蕎麦粉：100g、つなぎ粉：20g お湯50gぐらい）注ぎ、さばき方（粉に水分が行き渡ってから力を入れずに粉がパラパラになるように均一によく混ぜ、さらに力を入れて小さいだんご状になるまで行う）この作業が非常に重要。陶芸の粘土のようにまとめる。耳たぶぐらいの硬さならばよいが、硬すぎても、柔らかすぎても、切るとき、茹るときに影響する。



ならやま景観整備

♪ 活動予定日 ♪

6月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)
7月	4 (木) 25 (木)	11 (木)	18 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 [ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
終了予定：午後3時

6月6日

- <里山Gr> 通路整備および竹林周辺整備
薪小屋の製作・薪作り
- <農園Gr> 田植え実習（午前、北側水田）
（佐保台小5年生18名）
（午後、南側水田）会員田植え
豌豆・大蒜・玉葱等の収穫
- <景観Gr> B.C. 彩の道草刈り 機械整備、調整
矢車草撤収、百日草播種、日陰植物草取り
水質調査、池の整備

6月13日

- <里山Gr> 通路整備および竹林周辺整備
薪小屋の製作・薪作り
カシナガトラップ設置A
- <農園Gr> 茄子の枝整理と誘引、甘藷除草
伝統野菜の誘引と支柱立て
大和薯・里芋・茄子などの除草
大蒜と玉葱収穫、玉葱跡の耕耘
田植え実習（予備日）
- <景観Gr> BCキャンプ周辺草刈り
A地区草刈り
皇帝ダリア杭打ち、ハヤト瓜杖誘引
池の整備、水生生物調査

アクセス

J R 平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発 J R 奈良駅行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分

携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

環境保護のため、お椀、箸、コップなどは
各自ご持参下さい。

連絡先：木村 裕



6月20日

- <里山Gr> 通路整備および竹林周辺整備
薪小屋の製作・薪作り
カシナガトラップ設置B
- <農園Gr> 南瓜の蔓整理など・枝豆などの播種
- <景観Gr> ならやま入口付近草刈り・ゴミ拾い
ビオトープ園整地移植、夏花肥料・金盞花撤収
池の整備

6月27日

- <里山Gr> 通路整備および竹林周辺整備
薪小屋の製作・薪作り
カシナガトラップ調査A
- <農園Gr> 里芋追肥・ジャガイモ収穫（晴天時）
里芋と茄子畑用水路整備など
- <景観Gr> ならやま入口付近草刈り
機械整備、調整
コスモス播種(佐保)・山野草園草取り整地
池の整備、水生生物調査



情報BOX

春の感謝祭
馬鈴薯祭りのご案内



6月20日(木)開催(雨天の場合は27日)

「ならやま」産地直送有機野菜たっぷり!

新鮮そのもの旬菜入り「カレーライス」!

赤米カレーも是非ともご賞味ください!

昨年は、遅霜の被害に遭ったりして出来栄も今ひとつでした。今年の馬鈴薯は、男爵・メークイン・キタアカリ、いずれも順調に育っています。

かと言って安心は禁物です。と言うのは、草食性のテントウムシダマシ(天道虫騙し)が一番好んで食害するのがナス科植物です。冬場は石などの陰に隠れて成虫で越冬し、春になると最初に馬鈴薯に行き、温かくなれば次第に他の作物に移動して行きます。駆除方法は良く見て回り、見つけたら捕殺する。これが一番確実で安全な方法です。誰でも簡単に捕まえることができます。

有機・無農薬栽培を目指して取り組んでいますので、機会があれば、畑を見回って捕殺してください。「ならやま産」の美味しい馬鈴薯を存分に味わうためにご協力ください。



※ 当日は、カレー用お皿とスプーンをご持参ください。

奈良学クイズ



【問い1】

次の絵は、ある有名な画家の作品の一部です。作者名と絵の正式名称をお答えください。



【問い2】

本堂が大職冠とも呼ばれており、鎌倉時代の建立とされる三重塔が現存している奈良県内の寺院名と所在地(町村名)をお答えください。

【問い3】



次の写真は、あるホテルの一室で、著名な科学者がピアノを弾いて楽しんでいる様子が写っています。

この科学者の名前と、ホテル名をお答えください。

※ 応募要領はP 21に掲載しています。



行 事 案 内

6月例会 大和の展望台「龍王山」へ登る

6月例会は軽登山です。大和高原と奈良盆地を接する山なみの中にひときわ高くそびえるのが「龍王山」です。頂上からは、国のまほろば大和の平野を一望できます。山の辺の道にある「長岳寺」楼門横から登りはじめ、「崇神天皇陵」の横を通って下ってきます。登りはじめ、下りはじめの30分はやや急ですが、ゆっくり歩きますのでどなたでも行けます。ただ靴は底の凹凸のある滑りにくいものを履いてきてください。途中からの雨に備え、レインウエアもご用意ください。降水確率予報午前60%以上の場合、完全中止といたします。

日 時；6月3日(月)

場 所；「龍王山」585m

歩行距離 6.5km

実歩行時間約3時間30分



集 合；JR「柳本駅」前 AM9:00

(近鉄大和西大寺8:05-8:27近鉄天理

JR天理8:48-8:54JR柳本)

(JR奈良8:34-8:54JR柳本)

コース；柳本駅-柳本バス停-天理市トレイルセン

ター-長岳寺楼門横-不動明王石像-

龍王山山頂-長岳寺奥の院-龍王山古墳群

-崇神天皇陵-柳本駅

担当；塩本：

寺田：

歴史文化クラブ6月研修会の募集について

6月の研修会「謎多き継体天皇と今城塚古墳を訪ねる」の参加者募集につきましては、マイクロバス定員の28名に達しましたので、締め切らせていただきました。会員の皆様のご協力に感謝しご報告申し上げます。



歴史文化クラブ 事務局



7月例会予告 夏季ハイキング

平成の名水100選、日本の滝100選などに選ばれている赤目四十八滝を歩きます。



川面を渡る涼風を受けながら、緑の溪谷をいく、夏に歩きたいルートです。3km以上にわたり大小様々な姿の滝が次々に現れ、楽しませてくれます。探勝路はしっかり整備され、初心者でも安心です。夏の暑さを逃れ滝の飛沫を浴びに行きましょう！！みな様のご参加をお待ちしています。詳しくは7月号でご案内いたします。

月 日；7月23日(火)

行き先；赤目四十八滝

アクセス

近鉄大阪線鶴橋駅から約60分⇒赤目口駅

近鉄大阪線大和八木駅から約30分⇒赤目口駅

⇒三交バス10分赤目四十八滝

担 当；羽尻・青木

歴史文化クラブ7月研修会予告

佐紀盾列古墳群と松林苑・超昇寺跡を訪ねる



集合日時・場所 7月16日(火) 10:00

近鉄京都線「平城」駅、北東側出口

コース 神功皇后陵古墳→成務天皇陵古墳→日葉酢媛命陵古墳→佐紀神社→隆光大僧正墓→平城天皇陵(市庭古墳)→バス停「平城宮跡」附近(昼食)→葛木神社→磐之媛命陵古墳→コナベ古墳→ウワナベ古墳→「新大宮」駅

備 考 当日が猛暑とか、雨天とかになれば、バス停「平城宮跡」や「航空自衛隊前」での解散もあります。また、「超昇寺跡」・「松林苑」は、日葉酢媛命陵古墳→佐紀神社→隆光大僧正墓の通過地点での説明になります。

平成25年・5月度幹事会報告

◆日時：平成25年4月23日(火)
17:15~20:30

◆場所：奈良市中部公民館

◆出席者：幹事15名 顧問1名

◆案件：

- ① 会員動向、会計報告 (会員は144名)
- ② 例会、自然教室、ならやま等の活動報告
- ③ 第12回総会議案書(案) [最終版] について
- ④ 収支報告 [最終版] について
- ⑤ 予算(案) [最終版] について
- ⑥ 総会実施要領について
- ⑦ 平成25年度会員名簿の発行について
- ⑧ 5~7月の行事予定の確認

ペン画によせて

境 寛

千光寺

ご承知の通り、生駒~信貴山縦走コース鳴川峠の奈良県側の古刹で、役行者が開いたと伝えられる寺です。

大峰山を開く前に修行したというところから元山上(もとさんじょう)と呼ばれています。役行者が生駒明神に参拝した折、明神のお告げにより、千手観音を感得し千手観音を刻み、日夜修行に励んだと伝わっています。また、役行者が母をこの鳴川の地に残して、大峰山に入った後も、母は修行を続けたところから、女人山上(にょにんさんじょう)とも呼ばれ、女性の修行者が多いといわれています。

奈良学クイズ・続

- ◆ 奈良学クイズ5月号の正解は、
【問1】ア 【問2】日新記聞、1872年
【問1】宇陀市菟田野町
※正解者は1名だけでした。

◆ 奈良学クイズ6月号・応募要領

① メール又はFAX

② 締切日:6月3日(月)必着



申し合わせ 事項

ならやま景観整備活動や野外行事は、前日午後7時前のNHK TV天気予報で降水確率が午前60%以上の場合は中止になります!!



◆ 4月下旬頃は寒暖の差が激しかった。水稻(赤米と黒米)の蒔きをいつにすれば良いのか、迷いに迷った。そして、

週間予報を頼りに5月1日に苗代づくりをした。日にちが経っても発芽の状態が芳しくなく、やきもきする日々が続いた。種籾の購入先に問い合わせたりしたが、小学生たちの夢をつぶせない。もしもの時はJAで苗を購入するしかないと覚悟した。ところが、気温が上昇するにつれ、勢いよく芽が出て生長してくれた。今年の5年生は18人とのこと。今までで最も多い。6月6日の午前10時から、賑やかな田植え風景が展開されることだろう。

◆ 各種団体等の総会が相次いで開催され、錯綜する日程の中での編集、チームの皆さんのお陰で完成。編集に興味関心のある方、大歓迎です。(里山人)

奈良・人と自然の会

会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



7月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年6月28日(金) am 9:00~



会報誌[ネイチャーなら]

編集チーム・代表 鈴木末一